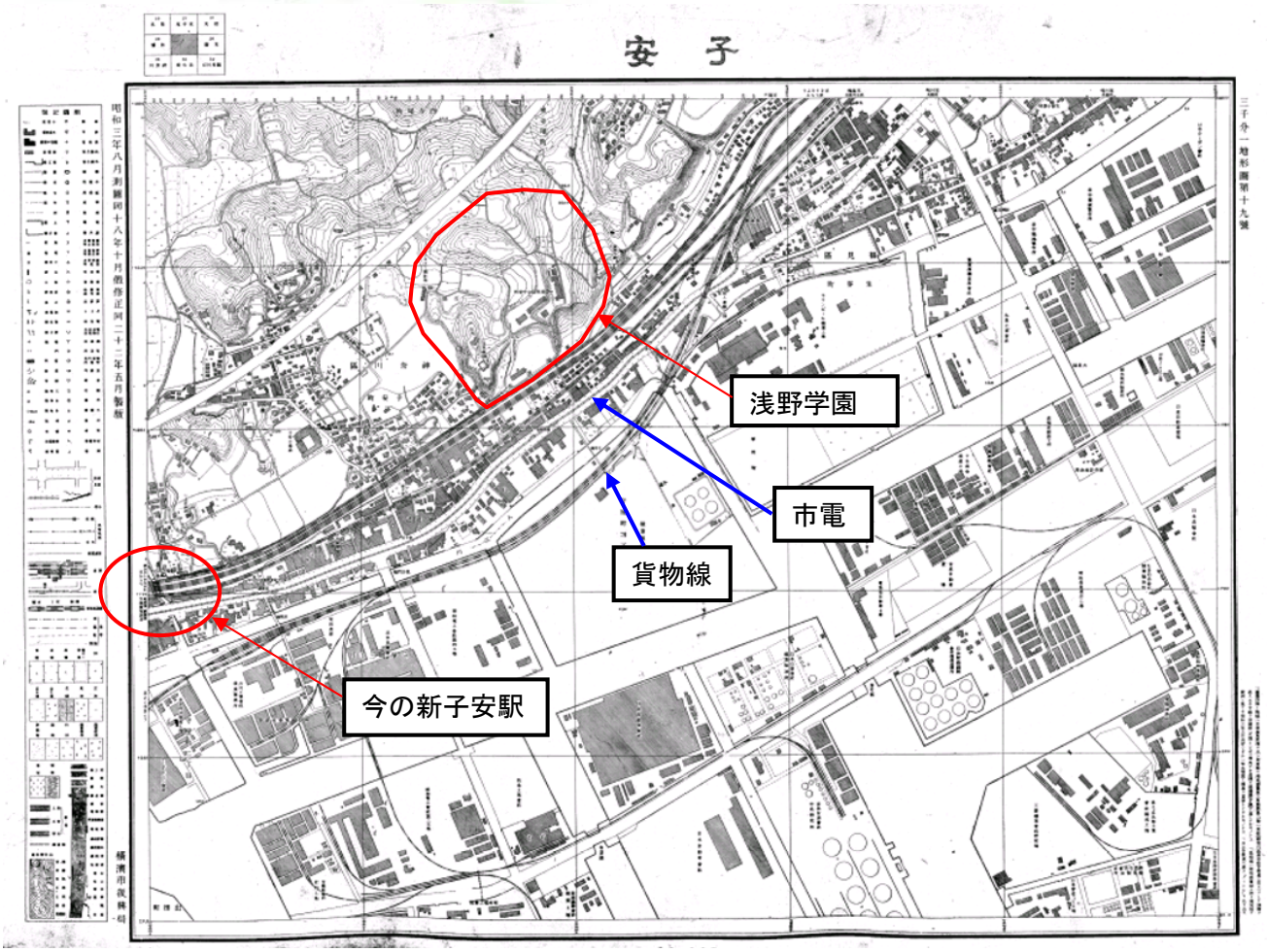
トマソン隊だよね？

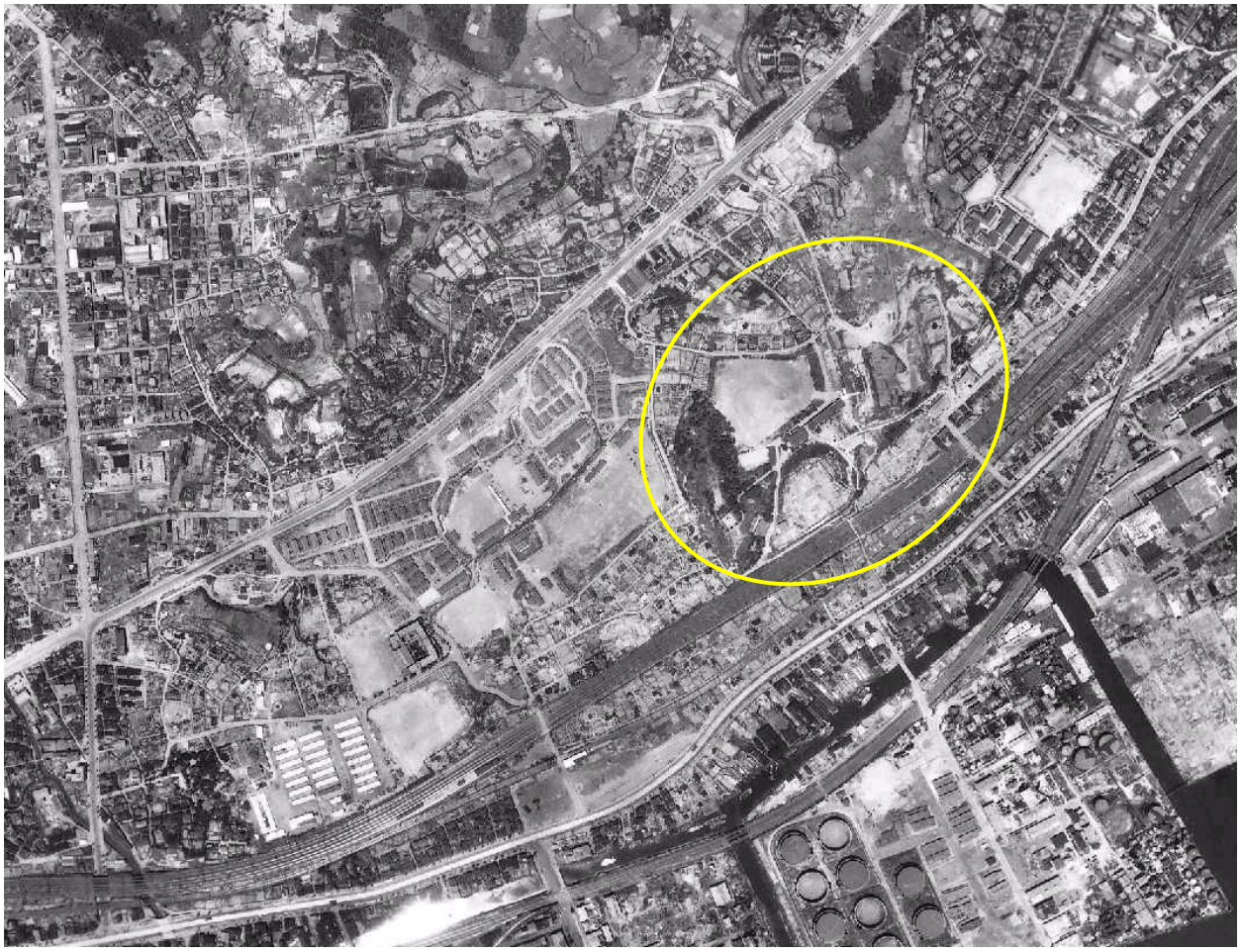
品川宿編　　by うさお



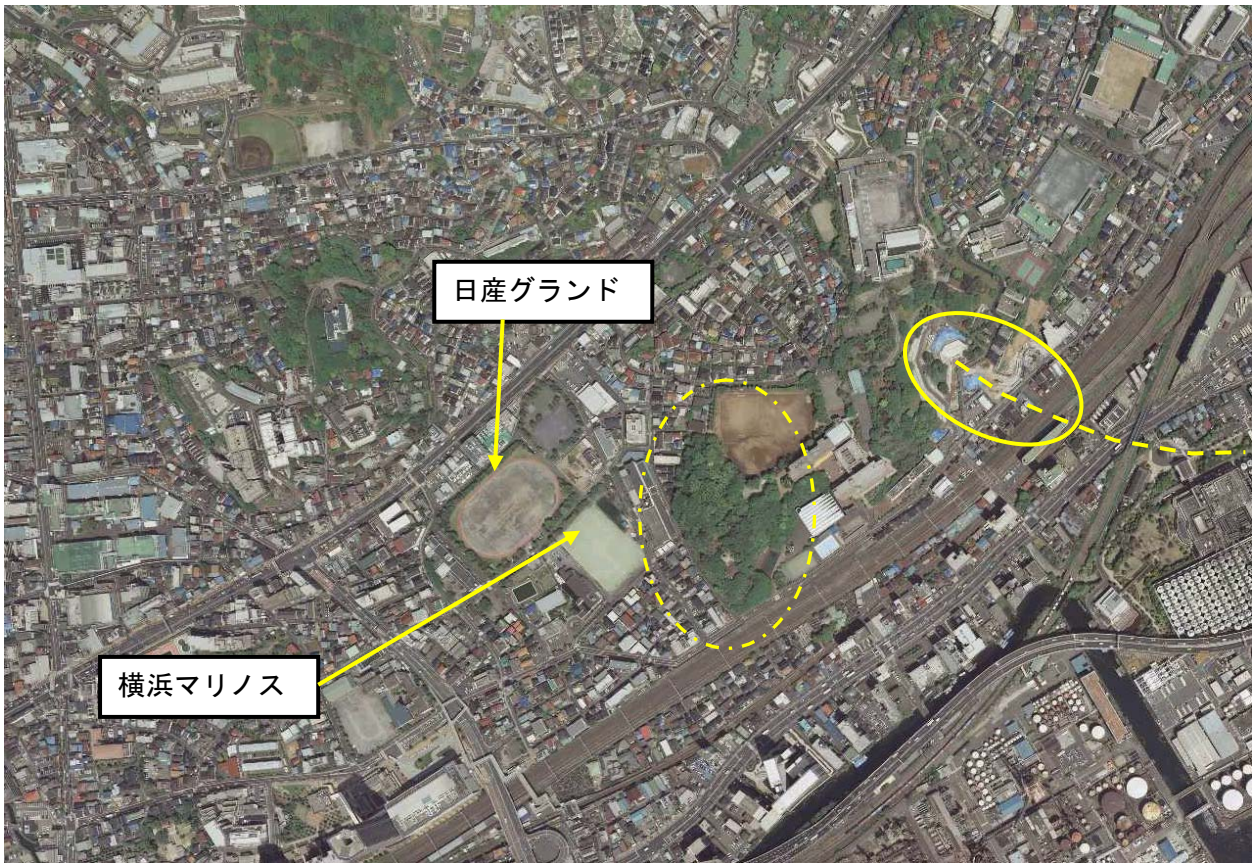
これは昭和3年の時代の子安周辺の地図です。真ん中の赤枠の中は「浅野学園」です。以前にもトマソン隊で取り上げましたが、浅野セメントや日本鋼管、東亜建設工業などの創始者、「浅野総一郎」氏がコンクリート工法講習所として開校した学園だ。高校野球も進学率も最近頓に有名になってきた浅野学園だが、起伏のある山の中に校舎がある、最近ではあまり見かけない環境を持つ学園だ。

立地条件もよい。眼下に昔は子安の浜が見えただろうが、昭和3年の時代には、もう日本石油のプラント群が地図上で見て取れる。国道15号線に市電が走っているし、市電の終点「生麦」の前に麒麟麦酒の工場群も見える。ここは今でも夜になると、このビール工場や石油の精製工場のプラントの灯りが、何と言えぬノスタルジックな夜景を形作っている。横浜の夜景十景に入っていないのが不思議なくらいだ。以前、ここから開港記念の花火大会を見てやろうと出かけたが、花火は良く見えるが小さくしか見えないのが残念であった。

やはり花火は頭上から降り懸かるくらいのものでないと、迫力が無いね。



これが、昭和22年頃の米軍が撮影した同地点のところ。終戦直後ね。黄色の枠内が浅野学園。



平成21年の写真だが、色が付いている方が学園全体を理解し易い。戦時中も艦砲射撃や空襲にも遭

わなかったようだ。学園の中央付近にあるブルーシートのところは、首都高環状２号線の工事中の箇所で、トンネルの坑口になるのだ。破線が首都高の分岐線が延びて来るところだ。

で、何を言いたいのかというと、この学園の西側の小高い丘に着目して欲しいのだ。ここに戦争遺跡が残っている。防空壕の跡だ。それをご紹介したい。（一点鎖線で囲まれた丘）

子安と言う町は、元々が漁師町だった所為で、網元風のお宅が幾つか現存している。

ここもそのようなお宅だ。

黒板塀に見越しの松なら、「切られの与三」と「お富さん」だが、ここは建物の壁が黒板塀で、料亭みたいだった。

その坂を上る途中にあるのが、コンクリートの小屋に収まったお地蔵さん？夜中に見たなら、ちょいと恐いかも。

坂の上から見るとこんな感じだ。

何のためにこんな樹木の中にって思わないかい？稲川淳二に語って貰いたいところだ。

さて、坂を上って日産グランドと横浜マリノスのグランドの間を歩いていくと、東側に浅野学園の丘が見えてくる。この鬱蒼とした森がそれ。着目してほしいのは、道路との境のコンクリート雍壁だ。近づいてみよう。

おお、ある、ある。防空壕を塞いだ跡が。
結構沢山あるぞ。
もう少し近づいてみてみよう。

何か碑文が残っているぞ。

戦争遺跡・防空壕

太平洋戦争中、本校の"銅像山"には、本校(浅野綜合中学)生徒や地域の人々がアメリカ軍による空襲から逃れたり日本鋼管株式会社等の機密資料を保管したりするために、日本軍や本校生徒の勤労作業によって数個の防空壕が作られた。ここは、その場所の一部である。当時、生徒たちの防空演習では、学年別防空壕への避難訓練も行われていた。

1945(昭和20)年5月29日の横浜大空襲では、防空壕内に待避した大勢の人たちは、火と黒煙が渦巻く横浜市内の惨状、そして焼夷弾が火を噴き焼け落ちる学園の校舎を涙して眺めていたという。

今日に伝わる"戦争遺跡"として後世に残すものである。

浅野学園
2004(平成16)年8月

戦争遺跡・防空壕

大平洋戦争中、本校の“銅像山”には、本校（浅野綜合中学）生徒や地域の人々がアメリカ軍による空襲から逃れたり日本鋼管株式会社等の機密資料を保管したりするために日本軍や本校生徒の勤労作業によって数個の防空壕が作られた。
ここは、その場所の一部である。当時、生徒たちの防空演習では、学年別防空壕への避難訓練も行われていた。

1945（昭和20）年5月29日の横浜大空襲では、防空壕内に待避した大勢の人たちは、火と黒煙が渦巻く横浜市内の惨状、そして焼夷弾が火を噴き焼け落ちる学園の校舎を涙して眺めていたという。
今日に伝わる”戦争遺跡”として後世に残すものである。

浅野学園

2004（平成16）年8月

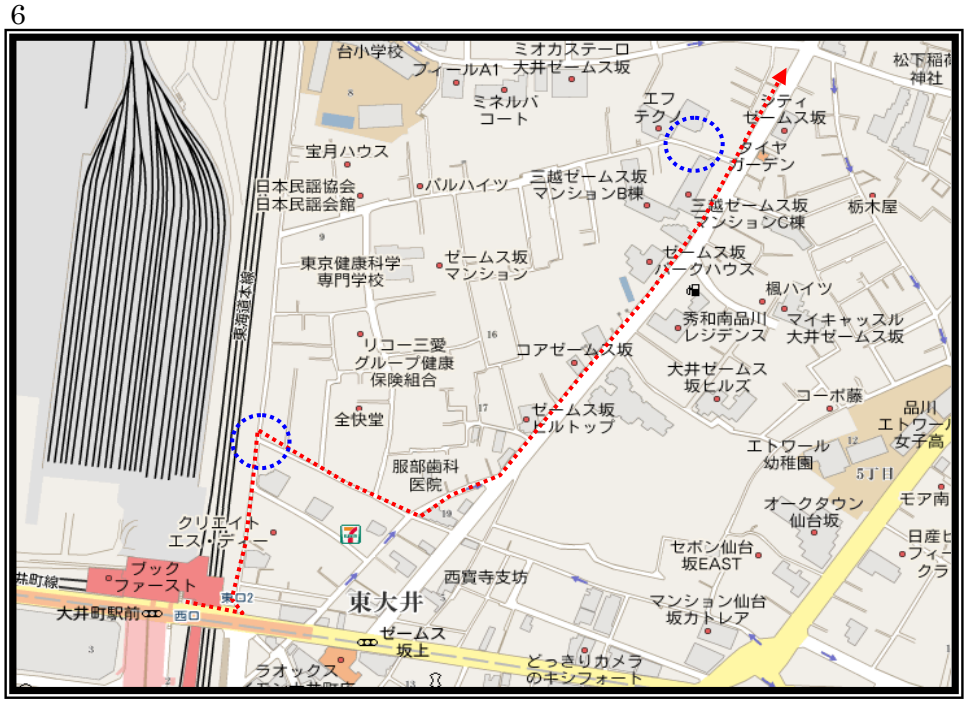
この碑文は比較的新しい時に作られている。でも2000年くらいまで防空壕が口を開いていたとは思えない。

この辺りは日産の社員住宅が多かったところで、日産グランドなどがある。

この雍壁はこの新興住宅街のところで、折れ曲がっている。伸び上がって覗き込んで見たが、こちらのお宅の裏庭に防空壕跡があるかどうかは判らなかった。更に行くと雍壁が浮き上がっている処があった。どうやらここが終点らしい。

この海に面した道路をここで曲がると、今の防空壕跡に辿りつく。この丘は鳥獣保護区で、浅野学園の生物部の活動はとっても有名らしい。

浅野学園から海側を望むと、ENEOSの石油プラントが見えます。住宅が多くなったなあ。高速道路の下にある貨物線についても触れたいけど次の機会に。



前回は大井町駅に近接するJR東日本総合車両工場を中心にご紹介しました。

しかし、うさおの記憶では何やら前に全部を説明しちゃったと思い込んでいましたが、どうもそうじゃない見たい。

多少不可解な気持ちもありますがご紹介を･･･。

まずは喫茶店から出発です。ゼームス坂を目指して下っていきます。何の変哲も無い普通の街並みです。

坂道にもゼームス坂と記してあり、何やらお洒落に見える所為か、色々な建物の名前にこの坂の名前が使われておりました。

ゼームス坂に辿りつくと、三越ゼームス坂マンションの入り口にひっそりと碑文がありました。

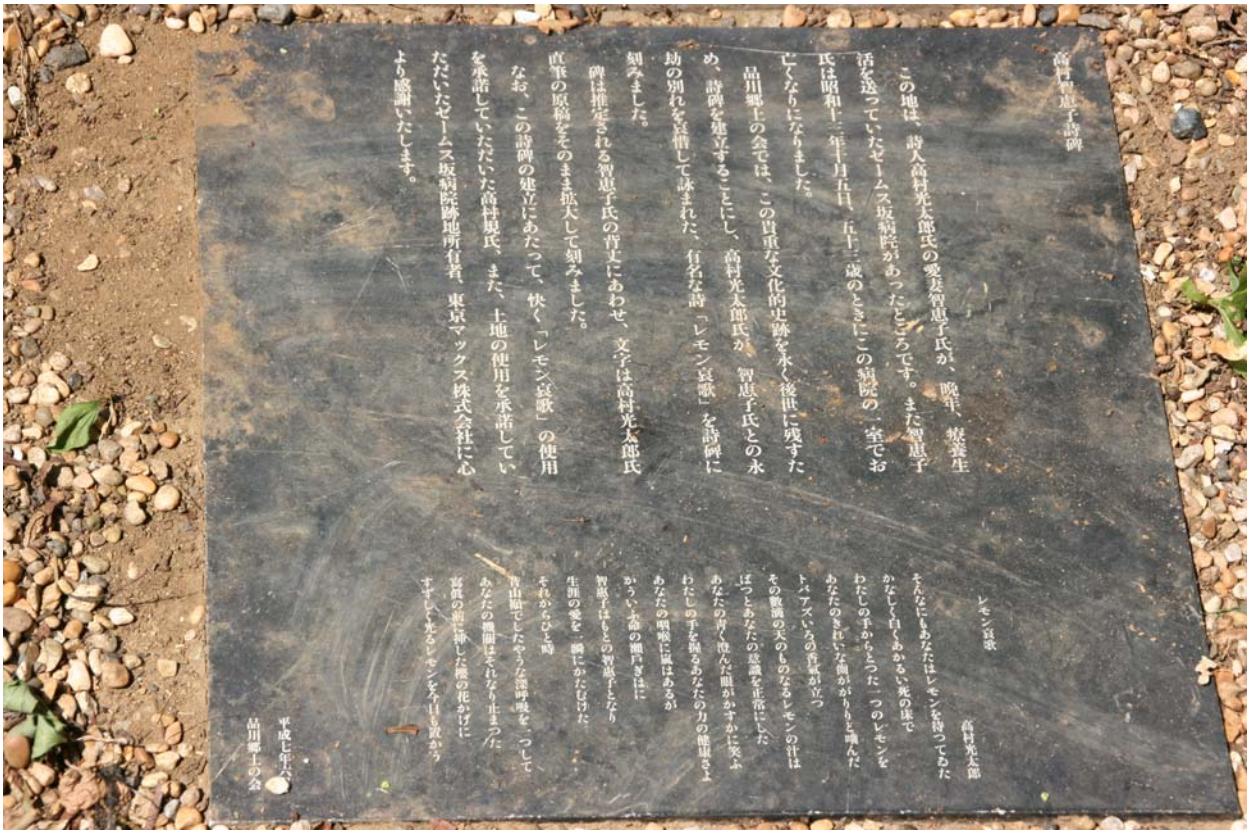
このマンションは英国人ジョン･M･ジェームス邸跡地だとか。

ゼームス邸跡地について

此の処は南品川英国人ジョン･M･ジェームス邸跡地である。

M･ジェームスは慶応二年二十八歳の時来日した。そして坂本竜馬等とも知り合い後に日本海軍創設に貢献し明治五年海軍省雇入れ以降幾多の変遷を経て住いを此の地に構え隣人に慕われつつ明治四十一年七十歳にて没した。墓は身延山本道裏山に在り「日本帝国勲二等英国人甲比丹ゼームス之墓」と刻まれている。（以下略）･･･　更に歩を進めることとしましょう。

この碑の前に、高村光太郎の「レモン哀歌」の碑が建っている。



高村智恵子詩碑

この地は、詩人高村光太郎氏の愛妻智恵子氏が、晩年、療養生活を送っていたゼームス坂病院があったところです。また智恵子氏は昭和十三年十月五日、五十三歳のときにこの病院の一室でお亡くなりになりました。

品川郷土の会では、この貴重な文化的史跡を永く後世に残すため、詩碑を建立することにし、高村光太郎氏が、智恵子氏との永劫の別れを哀惜して詠まれた、有名な詩「レモン哀歌」を詩碑に刻みました。

碑は推定される智恵子氏の背丈にあわせ、文字は高村光太郎氏直筆の原稿をそのまま拡大して刻みました。

なお、この詩碑の建立にあたって、快く「レモン哀歌」の使用を承諾していただいた高村叟氏、また、土地の使用を承諾していただいたゼームス坂病院跡地所有者、東京マックス株式会社に心より感謝いたします。

平成七年六月
品川郷土の会

レモン哀歌

高村光太郎

そんなにもあなたはレモンを待つてゐた
かなしく白くあかるい死の床で
わたしの手からとつた一つのレモンを
あなたのきれいな歯がかりりと噛んだ
トパアズいろの香氣が立つ
その飽満の美のものなるレモンの汁は
ぱつとあなたの意識を正常にした
あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑ふ
わたしの手を握るあなたの力の健康さよ
あなたの喉頭に風はあるが
かういふ命の獨り歩きはに
智恵子はもとの智恵子となり
生涯の愛を一瞬にかたむけた
それからひと時
青山脳でしたやうな深呼吸をつして、
あなたの機關はそれなり止まつた
寫眞の前に淨し檬の花かげに
すがしく光るレモンを今日も飾かう
より感謝いたします。

高村智恵子の碑文は足元にある。皆が碑を踏みにじりながら高村光太郎の碑を眺めることになる。周りを土ではなく、石畳にすれば、こんなイメージにはならないのに、雨の後は悲惨だなあ。

親切なお巡りさんに道を聞く。地域に密着しているかのような人の良さそうな小父さんで、色々な見所を教えてもらった。尤も、江戸時代からの遺跡はないかとの質問は難しかったかも。

申し遅れましたが、歩いて辿った跡は赤の破線の通りです。

青の破線丸は本文に示した名所旧跡？です。

この日は日差しも強く、暑かったため、余り散策する気になれなかったが、歩いた。

こんなに歩いたことはめったに無く、Caccoは完全にばてていた。いつもは車で移動するため、または直ぐ喫茶店に入っちゃうため、こんなことにはならないのだが喫茶店が無かったのだ。

次に訪れたのが湍運山天龍禅寺（前回もご紹介）。ここは煉瓦塀が有名なところです。

関東大震災ではやはり被害が在ったようで、真ん中辺に大きなひび割れが入っていた。

上の地図の青丸の「天龍禅寺」とあるところだ。

煉瓦は澁澤榮一が深谷に工場を作ったことで、明治の時代に爆発的に使われるようになった。この色合いは他の建設用資材では表しようがない。

このお寺さんの近くに、馬頭観世音の祠がありました。品川という地名には、発展し続ける近代都市的な響きがあるが、どうやら実態は「古き良き江戸」を色濃く残しているしもた屋の町であるらしい。

ご近所の方も信心深くいらっしゃるようで、お花、蝋燭など絶やされていない。祠の扉の開け閉めでさえも、毎日なれば大したものだ。

海蔵寺には多くの無縁佛や、首塚、関東大震災の被災者、京濱鉄道轢死者などの慰霊碑が多くある。

気の弱いうさおは境内を通って深夜に、家に帰るなんてことは出来ないだろう。

多くの霊を背負って帰る･･･玄関を開けたとたん、あら、何方か御一緒なんですかって言われたら腰が抜けちゃうよ。首塚かと思ってカメラを向けたら、駐車禁止の石だった。

国道１５号線を横断し、緩やかな坂を上り東に向かうと、日蓮宗自覚山海徳寺があります。この寺には幕末の遺物が色々残っていますよ。

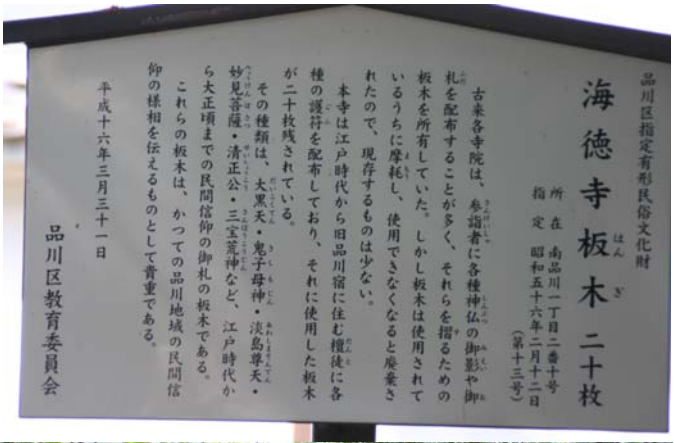
このお寺さんの参道はとても狭く、民家が肉薄しています。もちろん境内もそう広いものではなく、大変手狭です。

ここに台場から持ってきたとか、船に積まれていた砲を飾ってあった。

隣にある碑は、明治39年12月9日の軍艦「千歳」が突風のため転覆し、乗組員65名、見送人15名の計83名が亡くなったものによる。

「千歳」は米国のユニオン鉄工所（サンフランシスコ）に発注された防護巡洋艦で、年明けに渡米する予定だった。

また江戸時代からの神仏の御影や御札の、板木が残されていることでも有名であり、品川区指定有形民族文化財に指定されている。



品川区指定有形民俗文化財

海徳寺板木（はんぎ）二十枚

所在　南品川一丁目二番十号
指定　昭和五十六年二月十二日
（第十三号）

古来各寺院は、参詣者に各種神仏の御影や御札を配布することが多く、それらを摺るための板木を所有していた。しかし板木は使用されているうちに摩耗し、使用できなくなると廃棄されたので、現存するものは少ない。

本寺は江戸時代から旧品川宿に住む檀徒に各種の護符を配布しており、それに使用した板木が二十枚残されている。

その種類は、大黒天・鬼子母神・淡島尊天・妙見菩薩・清正公・三宝荒神など、江戸時代から大正頃までの民間信仰の御札の板木である。

これらの板木は、かつての品川地域の民間信仰の様相を伝えるものとして貴重である。

平成十六年三月三十一日

品川区教育委員会

こんな風に何かを祀った碑と、当時の建て看板のイミテーションがあります。ここの銀杏木も春の桜も有名だそうです。

この寺が有名なのは、「ホームラン地蔵」があること。昭和23年生れの岩崎和夫少年は野球が大好きだったが、心臓肥大のため小学４年で入院、偶然病院に立ち寄った王選手が病室に寄ってサインをして励ましたが、亡くなってしまった。彼の墓はバットを抱いた地蔵の姿で「ホームラン地蔵」と名づけられた。『海徳寺寺報』より　次回はこの先の品川宿についてだあ。